

みなさんから寄せられた**イトーヨーカドー弘前店**の思い出【メール✉・記入用紙📄】

(1)✉■私が大学1年の時に生まれて初めてのアルバイトをしたのがイトーヨーカドーでした。年末年始の期間でしたが、クリスマスのプレゼントや正月用品を求めのお客様の多さに、ただただビックリしたことを思い出します。正月期間のためか1月2日、3日に勤務したアルバイトにはバイト代とは別に大入袋と書かれたポチ袋に、お年玉をもらえたことが嬉しかったです。／古川さん

(2)✉■全国的に見るとイトーヨーカドーは大型スーパーマーケットに分類されますが、弘前では百貨店級の存在といってもいいでしょう。駅前地区新市街地の形成に大きく寄与した存在です。

私が幼稚園児から小学校低学年だった頃、世に言うバブル景気の時代でした。少量のラムネ菓子に玩具がついた箱物(特にメタルヒーロー)を目当てに、地下の売り場に通ったのを思い出します。同フロアのバスターミナル側には、玩具店があり、ここにもよく足を運びました。

それから、当時はエレベーターのお姉さんがボタンを押して案内されていたのが懐かしいです。エレベーターガールは土手町の中三にもおりましたが、その存在がヨーカドー弘前店の価値を高めた一因だと思うのです。

8階屋上の遊具コーナーも好きでした。店内から外へ出る所の右側に、綿飴を作って楽しむ機械がありました。いつだったか作っている最中に、何かがパチッと顔にはねて驚いたことが忘れられません。／對馬和也さん(郷土地理愛好家)

(3)✉■東北の田舎育ち。知らないこと、足りないものばかりだった。そんな環境だと感動へのハードルが低く、些細なことで豊かな気持ちになれた。「明日弘前さ行くぞ」そう言われた日は、ドリフが終わったら大急ぎで歯磨きをして布団にもぐり早く寝た。早く明日になって欲しかったからだ。枕元にはきれいに畳んだよそいきの赤いワンピースに白いタイツ。興奮してなかなか眠れなかった。

あっという間に朝になり、家から駅までタクシーに乗り、そこから五能線に一時間揺られて弘前へと向かう。国鉄に勤めている親戚のおじさんが時間になると出てきて、切符にパチンとハサミを入れてくれるのも嬉しかった。虚弱体質だった私は、車でさえも酔っていたが、そろそろ限界だと思った頃、まもなく終点弘前です。とアナウンスが入ると気持ち悪さも吹っ飛んだ。降り立った駅は何から何までハイカラな匂いがした。田舎育ちの私にとってまぎれもない都会。

駅前からほんの数メートル歩くとそこに8階建てのイトーヨーカドーがあった。まばゆいばかりにそびえ立ち、てっぺんに今にも飛び立ちそうな鳩のマーク。それは私にとってデパートだった。大人になってから、イトーヨーカドーがデパートではなくスーパーマーケットだと知って、結構な衝撃を受けた。

私は高校卒業後、横浜のデパートに就職した。田舎にはないような一流の品々、素敵なのがたくさんあるのだけれど、あの頃のイトーヨーカドーの店内のワクワク感は都会のデパートにはなかった。

私の知っているデパートは、あくまでも汽車に揺られて酔いながら行った駅前にそびえ立つイトーヨーカドーなのだ。店内に入って数時間後には、母の長すぎる買い物に閉口し、試着室で座り込んでいる。疲れてしまうのだ。何度も服を体にあてがわれ、そばにいないと迷子になるでしょとにらまれる。とにかくすべての売場をくまなく見ている。

8階のレストランのプリンアラモード、お小遣いを握りしめて何を買うか悩んだサンリオショップ。編み物好きの母が大量に買う毛糸。

当時は、制服を着た店員さんがたくさんいて活気に溢れていた。

きっとハそくりをたんまり持ってきたであろう母と、朝から晩まで歩き回り過ごした夢のような場所。一日中買い物をして、指に食い込む荷物を持って、再び駅へと歩く夕方の道。

それは、当時の私にとっては、ディズニーランドの帰り道のような満足感だった。疲れて汽車に揺られ、いつの間にか寝てしまい、母に起こされ夢のような一日が終わる。

買ってきた新しい服や、紙袋の匂いに心ときめいた幼かった自分。

あと数カ月で、そこにあるのが当たり前だった駅前の景色は様変わりする。あの今にも飛び立ちそうな鳩の看板を見ていると、もう一度だけでいいので年老いてしまった母と、イトーヨーカドーという、デパート巡り。これをもう一度してみたくなくなった。／藤田信子さん

(4) 目 ■ 中学生のころ、学校が終わってから塾までの時間にみんなでクレープを食べに通うのが大好きでした。社会人になってからも、ねぷたまつりの運行の前に腹ごしらえにみんなでレストランに行っていました。／加藤さん

(5) 目 ■ 開店から4年後の昭和55年、みちのく銀行十和田支店から弘前営業部に転勤しました。休日に早速イトーヨーカドー弘前店に買い物に行き、現金をおろそうとしたら、青森銀行のCD(キャッシュディスペンサー)はあったのにみちのく銀行のは無かった。それではと翌日店長に会見を申し入れたところ快くお会いしてくれました。偶然ですがイトーヨーカドー経営者と同姓同名でした。店長に「CDの設置のお願いに来ました」と言ったら、「なんで今まで来なかったんですか」と少し語気を強めて言われました。さらに「CDを設置すればおたくもいいし、うちもいい、何よりお客様が一番喜ぶでしょう」と言われ、とにかく早く設置しましょうとCDが設置されました。／鈴木敏文さん



画・鈴木敏文さん

(6) 窓 ■ 私は旧木造町出身で、アルバムに、3歳の頃に幼馴染の家族にイトーヨーカドーに連れて行ってもらった時の写真がありました。当時の弘前駅前はとても賑やかだった記憶があり、映画館やスポーツ用品店が軒を連ねる中、



やはりイトーヨーカドーは別格でした。特に屋上遊園地は本当にパラダイスの様で「家に帰りたくない」「いつか弘前市に住みたい」と思っていました。私は今、弘前市に在住していますが、当時の楽しかった



思い出が今の私を形作っているのかもしれませんが。イトーヨーカドーの名称が無くなるのは本当に寂しいです。／三浦和英さん

(7) 目 ■ 8階のファミリーで友達と時々ランチをしながらおしゃべりした事を思い出します。特にプリンアラモードがおいしかったです。／80代女性

(8) 目 ■ 30代の頃、仕事の場所がヨーカドーの近くだった事もあり、よく地下の食品売場にはお世話になりました。当時、自動車免許を持っていなかった私は、朝は主人に送られて、帰りはヨーカドーからバスで帰ることがほとんどでした。一日中忙しく走りまわり、クタクタになってヨーカドーの地下で夕食の食材を買ってバス停へ。バスの時間まで余裕がある時は1階のクリスタルトレインでコーヒーを一杯。体にしみわたりました。ほんの数十分ですが、自分だけの時間を過ごすことでリフレッシュでき「さあ家に帰ったらもう一息がんばろう」という気持ちにさせていただきました。もちろん子どもたちと過ごした思い出もたくさんあります。長い間ありがとうございました。／60代女性

(9) 目 ■ 正月に家族で福袋を買うのが楽しみでした。今では月に一度、病院通いしたあと、ヨーカドーに行き弁当や買い物をして帰るのが楽しみです。閉店すると思うととても悲しいです。孫が2歳なので季節ごとに洋服を買ったり、クリスマスや誕生日祝いを買っています。今までありがとうございました。／70代女性

(10) 目 ■ 30年ほど前のことです。主人は難病を患っていました。毎月、国立病院に通院していました。その帰り、必ずイトーヨーカドーに寄り、8階のファミリーレストランで食事をするのです。お箸を使えないので、ホットケーキを注文し、私がフォークを刺してあげていました。エレベーターで外を見ながら8階に上がるのがとても気分が良かったのだと思います。何か月か行かないときがあり、久しぶりに行きました。席に座ったらウエイトレスさんが私たちの席に駆け寄ってきました。そして丁寧に「お元気でしたかー」と声をかけてくださりました。とてもうれしかったです。懐かしい思い出です。／水木ノブ子さん(80代)

(11) 目 ■ ヨーカドーができたとき、私は18歳でした。その前は弘南バスを利用して、弘前の学校に通っていたのです。オープンしてからは週2回は必ずお店に入り、1階から8階までエレベーターに乗って、岩木山をながめながら食事をするのが一番の楽しみでした。結婚して弘前にいるので、子どもができてからはよく出かけたもので、ある時、電気が止まりエレベーターが動かなくなり中には14～5人位いました。ある人がもし電気が戻ったら急にドツと落ちるかもと冗談を言ったらみんなびっくりしてしまい、今でも忘れられない思い出です。／70代女性

(12) 目 ■ オープンのとき、私は小学生でした。父と弟と一緒に地下に行き、パンを買ってもらいうれしかったです。人がいっぱいいて活気があり、何でも売っていて、行くのが楽しみでした。短大のときは自転車でよく行っていました。

8階の「つゝみ」と、地下の「東京ダニエル」さんで交互にアルバイトをしていました。お盆、お正月、連休、長期休みにはお皿洗い、接客と働いていました。お昼はとても混んでいて忙しかったです。社員さんやパートさんに働くこと、接客の基本を教えてくださいました。失敗も多く、注意され落ちこんだときも、アルバイトの仲間で励まし合って助けられました。

地下の「東京ダニエル」さんはお好み焼き屋さんで、社員さん、パートさんが暑い中一生懸命焼いていました。

向かいの「ホビーラブリーフレンド水木」さん(小物屋さん)があって、店員さんがお昼過ぎに休憩によく来られてました。

「東京ダニエル」でのアルバイトのとき、夏休みに、父と弟がかき氷を店に食べにきてくれたり、高校の先生がソフトクリームを買いにきてくれたりと嬉しかったです。

母も好きだったイトーヨーカドー、父と一緒に車で行ったことも思い出です。今も自転車でイトーヨーカドーに買い物に行きます。閉店まであと少し、まだお世話になると思います。／50代女性

(13) 目 ■ 小学生の頃、屋上にトランポリンがありました。自動でできるわたあめ機で作って食べたり、コインゲームをした楽しい思い出です(友人と一緒に)。

森田のカバン屋さんで学業に必要なカバンや財布を買ったりしてました(母と一緒に、中・高校生頃)。

24時間テレビの中継場所で募金をしに行ったりしました(友人と一緒に)。店舗は閉めてましたが、入口を24時間開けていたので、その日はお疲れ様でした。

「レストラン十和田」は初デートの場所でした(中学生の時)。緊張している私達にお店の人が気を使ってくれました。

高校生の時、土曜日、地下のフードコートでうどんを友人とよく食べました。今より子どもが多かった時なので、マナーの悪い子もたくさんいたことでしょう。うどん一杯で長居してすみませんでした。そして青春の1ページにはイトーヨーカドーがいつもありました。長い間お疲れ様でした。ありがとうございました。／ふくちゃん(50代女性)

(14) 画 ■ 今から45年くらい前でしょうか。青森県には弘前にしかヨーカドーがなく、母と時々行くのが楽しみでした。私の記憶では吹き抜けになっていて、中2階のような所にカフェがあり、大好きな厚切りピザトーストとクリームソーダ・メロンソーダ・レモンスカッシュをその日の気分で選んでいました。ホールのまわりには青と赤と白の縁取りのフリフリなディスプレイがいっぱいあって、昭和のデパートらしい思い出があります。最後に見に行きたかったのですが、心の中にしまっておきます。母との楽しい時間をありがとうございました。／50代女性

(15) 画 ■ ①小学校低学年の頃、お年玉でおもちゃを買うため、祖父と新年初売りで賑わうヨーカドーへ。上りのエスカレーターでおもちゃ売り場に向かっていたところ、スリがエスカレーターを逆走しながら逃げ降りてきて、子供ながらに大変驚いた記憶があります。(1978～80年頃)



②小学校高学年の頃、買い物

でヨーカドーに行くと、店内にナナハンのオートバイが展示されていて、跨がらせてもらいました。その時、あまりにももの大きさとカッコ良さに衝撃を受け、いつかは自分も乗りたいと思いました。これがきっかけで、現在大型のオートバイに乗っております。(1981年～83年頃)

③小学校高学年の頃、昭和の名作アニメ「釣りキチ三平」の影響を受け、祖父とヨーカドーの釣具売り場に行き、初めてルアーフィッシング用のロッドを買ってもらいました。(1981～83年頃)／m.jaigoさん



(2021年1月)

(16) ㊦■『イトヨー・オール・マイ・ラヴィング』

誰もがその名を知ると言っても過言ではない、超大手総合スーパー「イトヨーカドー」。我らが弘前市民はイトヨーカドーについて、愛を込めて“イトヨー”と呼ぶ。以前Xでフォローに問いかけたところ、イトヨー呼びするのは、どうやら青森県内でも弘前市民だけのようだった。青森のローカルパン「イギリススト」が全国区ではなかったと知ったときと、同じくらいの衝撃だった。ちなみに、弘前市出身の芸人・シソン又じろうさんも“イトヨー”呼びされている。さすがパイセンや…と改めて親近感を覚えた。

弘前市民のイトヨーに対する愛は、本当に深い。なんと「イトヨーカドー 弘前店まみれ」という公式(?)ガチャガチャまで登場してしまったのだ。



(500円でもイトヨーのためならやる)

開発したのは、地元企業の「アサヒ印刷」さん。こちらの会社、イトヨー以外にも青森県内の名物お菓子やローカルバス、先ほども述べた青森ローカルパン「イギリススト」などのガチャも製造している。青森オタクにはグッサグサ刺さるものばかりで、控えめに言って天才なのである。ちなみに、イギリスストはサコッシュとマステが当たった。めっちゃ嬉しい。

* * *

休日に親から「イトヨー行くか」と言われた日にはもう、大興奮である。小さい頃、イトヨーカドーはデパートだと思っていた(ガチめに)。イトヨーさ行けば、なんでもあるびょん。バッグや靴、下着類、文房具などさまざまなものを、イトヨーに行くだけで一気に揃えられた。何ならデパ地下だと思っていた地下食品コーナーはとても広く、いつもと違う惣菜やお菓子など買ってもらえる超ハッピータイムだった。さらに、ゲームセンターや上階にある屋外遊具(トランポリンめっちゃ飛んでた)、ファミール(ハイカラな洋食屋)など、特別な体験ができるテーマパークですらあった。

一番気に入っていたのは、何とんでもエレベーターガール。私の幼少期のイトヨーにはエレベーターガールがおり、「上へ参ります」と手を挙げる姿に憧れを覚えたものだ。将来の夢になったときも一瞬あった。ただ、その姿はいつの間にか消えていた。

* * *

そんな愛と思い出が詰まった「イトヨー撤退」の速報が入ったのは、今年2月8日のこと。「まさか、イトヨーが」きっと弘前市民の誰もが耳を疑ったこ

と思う。青森市民もそうだろう。絶対に無くならない、ずっとそこにあるものと信じて疑わなかったものが、消えてしまう。業務時間中ではあったが、ショックでしばらく途方に暮れた。早速幼馴染と連絡を取り合って悲しんでいたところに、母親からも驚いたと連絡があった。それだけ市民についてはビッグニュースであり、大事件であったのである。

* * *

4月、弘前公園の満開の桜に合わせ、4日ほど帰省した。その際に幼馴染とイトヨーにも立ち寄り、地下のフードコート内の「ポップ」で昼食をとった。ポップはイトヨー直営の飲食店であり、たこ焼きやラーメンから今川焼き（青森でいうところのおやき）、さらに弘前店には全国でも珍しくクレープまである。なんでも屋さんなのだ。幼馴染とイトヨーの思い出を語りながら、お好み焼きと焼きそば、ポップ名物のメガポテトとクレープをいただいた。



(ヤンチャな3点セット) (チョコサンデー) (めちゃくちゃ安い)
 今回は、何ならお花見と同じくらいポップに行くことを楽しみにしていた自分がある。幼馴染は「どうかポップだけでも残してくれ」と、来店の際に「お客様の声」に投函しているのだという。それほど切なる願いだった。

* * *

そして先日、ついに弘前イトヨーの閉店日が9月29日に決定という速報が流れた。別れの日が提示されたことで、「ああ、本当に無くなるんだな」と、いよいよ閉店が現実であることを突きつけられてしまった。たかが一商業施設の閉店で、号外や速報まで流れることはそうそう無いことだろう。だが、イトヨーはそこまでするほど弘前市民に愛されており、あり続けることが当たり前と信じて疑われないような存在だったのである。

イトヨーカドー 弘前店の思い出写真募集!!

1976(昭和51)年、弘前にイトヨーカドーが誕生しました。48年間にわたり市民に親しまれてきました。その思い出を写真で残してください。写真をお送りいただくか、中央公民館にご持参ください。

応募要項

- 写真：レストラン、フードコート、遊技場、ゲームコーナーなど、思い出の場所を撮影してください。
- 写真のサイズ：縦横3:4の比率で撮影してください。
- 写真の枚数：1枚から複数枚まで可。
- 写真の形式：JPEG形式で保存してください。
- 写真のサイズ：縦横3:4の比率で撮影してください。
- 写真の枚数：1枚から複数枚まで可。
- 写真の形式：JPEG形式で保存してください。

お申し込み先：イトヨーカドー 弘前店 庶務課

〒036-8136 弘前市大字下白旗19-4
 弘前市立中央公民館11階11-11号室(11階)内

TEL 0172-33-4490

〒036-8136 弘前市大字下白旗19-4
 弘前市立中央公民館11階11-11号室(11階)内

TEL 0172-33-4490

弘前市立中央公民館 (お問い合わせ: 0172-33-6561)

(市をあげてイトヨーマジ LOVE1000%)
 弘前市立中央公民館の公式サイトでは、現在「イトヨー弘

前店の思い出・写真」を募集している。市民から寄せられた思い出や写真も見ることができるのだが、本当に多くの方に愛される存在なのだということを、強く感じさせられた。

* * *

人でも物でも「いつもそこにある」ということは当たり前ではない。あるときに突然無くなってしまうことももちろんあるのだ。今回のイトヨー閉店のニュースで、改めてそれを自分ゴトとして深く受け止めた。親の存在はその最たるものだと思っていて、正に「親孝行したいときに親はなし」。あと何度一緒に桜を見られるだろうかと、近年はよく考えている。いくら嫌だと地団駄を踏んだところで、覆らないことも世の中にはたくさんあるのだ。まだ「そこにある」ときに、しっかりと大切さに気づけるか。いつも感謝し、たとえ離れ離れになっても後悔が無いように愛を与えられているか。無くしてから気づくのではなく、いつも「そこにある」ことの尊さを忘れず、しっかりと想いを伝えながら生きていきたい。

弘前イトヨー、Forever。人生を共に歩んでくれて、本当にありがとう。
(閉店の瞬間のニュース流れたら、本当に泣くかもしれん…) / へふな一こさん・30代 https://note.com/hofner_ko/n/n4c7da14ecf8d

(17) ☒ ■昭和51年、私は25歳で就職のため上京して、縁があって東京の人と結婚して、今日に至っています。

イトヨーカドー弘前店の思い出は、今は亡き父がノクターンで上京してくれました。青森まで新幹線が開通するのはだいぶ先のことで、盛岡まで新幹線で行って、そこからは高速バスで弘前まで3人の子どもを連れて里帰りしました。

低学年の時は、子どもたちと屋上の遊技場で蒸気機関車に乗ったり20円を入れて動く馬に乗ったり、東京では連れて行くことができなかったのも、子どもたちも大喜び。私の母も孫がかわいくてお金をあげていました。

その後はファミリー食堂でお子様ランチを食べたり、岩木山が見える席をとって、ゆっくりしました。

子どもが中学生になると一人で夜行バスに乗って弘前まで来ました。1本で行けるので安心です。

弘前に着くとすぐヨーカドーで買い物するのが習慣になって、その日も夕食の買い物をして実家に帰りました。何か荷物が少ないと思ったらなんと旅行鞆がありません。買い物カートの下に置きっぱなしでした。すぐ取りに行きましたが、懐かしい思い出です。

今は飛行機で帰省しますが、また空港からバスを利用して、バスターミナ

ルまで来ます。そして相変わらずヨーカドーで夕食のおかずを買って帰ります。

帰るたびに、改装したり拡張していたので、まさか閉店するとは思っていませんでしたが、開店が私の上京した時なので強く心に残っています。ヨーカドーには良い思い出があります。本当にありがとうございました。
／澤出さん(東京都)